

Ⅰ 具体と抽象

プリンター

国語のワーク5・6年生

「たとえば」を使ってくわしくする言い方を「具体化」。「つまり」を使ってまとめる言い方を「抽象化」と言います。次の各文について、「具体化」をしているのか「抽象化」をしているのか分けましょう。

- ① 自動車、電車、飛行機。つまり、乗り物。
- ② はげましの言葉。たとえば、やればできる、がんばろう、きつとうまくいく。
- ③ 喜び、怒り、悲しみ、楽しさ。つまり、感情。
- ④ 好きな食べ物。たとえば、とんかつ、お好み焼き、すし。
- ⑤ 季節の変わり目。たとえば、節分、春分、初霜。

「 」内に番号を書きましょう

具体化 「 ② ④ ⑤ 」 抽象化 「 ① ③ 」

例のように、「たとえば」を使った文は「つまり」を使った文に、「つまり」を使った文は「たとえば」を使った文にそれぞれ書きかえましょう。

【例】

砂場、ブランコ、すべり台。つまり、公園にあるもの。

公園にあるもの。たとえば、砂場、ブランコ、すべり台。

- ① 秋の祝日。たとえば、敬老の日、秋分の日、体育の日。

敬老の日、秋分の日、体育の日。つまり、秋の祝日。

Ⅰ 具体と抽象

プリント2

国語のワーク5・6年生

② ピヨちゃんは、算数で百点をとった。また、国語でも百点をとった。さらに、理科でも百点をとった。つまり、ピヨちゃんは天才だった。

ピヨちゃんは、天才だった。たとえば、算数で百点をとった。また、国語でも百点をとった。さらに、理科でも百点をとった。

③ その日は机にすわっても、勉強はまったくはかどらなかった。たとえば、まんがを読んだり、ノートにらくがきをしたり、ネットで動画を観たりしていた。

その日は、机にすわっても、まんがを読んだり、ノートにらくがきをしたり、ネットで動画を観たりしていた。つまり、勉強はまったくはかどらなかった。

④ 電車はこんでいたし、買い物のレジはすごい行列だった。つまり、ものすごく人が多かった。

ものすごく人が多かった。たとえば、電車はこんでいたし、買い物のレジはすごい行列だった。

⑤ アンドレアはとても機嫌が良かった。たとえば、鼻歌を歌い、身のこなしも軽やかで、何よりずっと笑顔だった。

アンドレアは、鼻歌をうたい、身のこなしも軽やかで、何よりずっと笑顔だった。つまり、とても機嫌が良かった。

⑥ 虎之助は、毎日庭に水やりをし、草ぬきをし、花や木の手入れをかかすことがなかった。つまり、虎之助は庭を大切にしているのだ。

虎之助は庭を大切にしている。たとえば、毎日庭に水やりをし、草ぬきをし、花や木の手入れをかかすことがなかった。

Ⅰ 具体と抽象

プリント3

国語のワーク5・6年生

次の言葉や表現をまとめるとすれば、何といえよいでしょうか。後の「」に考えて言葉を書きましょう。

- ① 電気をこまめに消す 水を出しっぱなしにしない
なるべく安いものを買う エアコンを使いすぎない

「節約」

- ② 目の前には恐ろしい怪人 後ろは崖で落ちたら死ぬ
武器も持っていないし変身もできない

「絶体絶命・危機一髪・八方ふさがり・ピンチ など」

- ③ 新一くんは、毎朝きまった時間に起きて算数のプリントを一枚やっている。今日はさらにテレビを観たかったけど、漢字の勉強をした。昨日はとても眠かったけど宿題を最後までやった。

新一くんの「がんばり・努力 など」

- ④ フレディに家族はいない。九歳のときに、両親は事故で亡くなってしまった。それ以来、フレディは、山小屋でひっそり暮らしてきた。近所の人付き合いもないし、友だちもいなかった。そういう人は、たいてい、犬や猫を飼って唯一の友人にしそうなものだが、フレディにはそのつもりはなかった。

「ひとりぼっち・孤独 など」
「なフレディ」

― 具体と抽象

プリント4

国語のワーク5・6年生

⑤ 整理整頓とは、必要なものと不要なものを分け、必要なものがあるべき場所にもどし、不要なものを捨てる行為である。それに対して、そうじとは、はいたりふいたりして汚れを取り除いてきれいにする行為である。

「整理整頓とそうじ」の違い

⑥ 妖怪はゆうれいと違い、人間の魂がもとになっているとは限りません。大きくみつつに仲間分けできます。

一つ目は、「もの」から生まれた妖怪です。たとえば、「からかさお化け」や「ちようちんお化け」などがそうです。もともとはただの「もの」だったのが、何かのきっかけで化け物になっているのです。

二つ目は、「生き物」から生まれた妖怪です。「九尾のキツネ」や「土グモ」などがそうです。三つ目は、「人」が化け物となり妖怪になったものです。「のっぺらぼう」「ろくろ首」「ロッキン」などがそうです。

「妖怪の種類」

⑦ ゾンビは、魂のぬけた死体のおばけです。この世の未練とかは関係ない、ただの死体おばけなのです。

日本には、ゾンビはいません。なぜなら、日本のおそうじ式では、特別なことがない限り死体は燃やしてしまうからです。これを「火葬」といいます。燃やされてしまうと、骨だけになりますから、ゾンビになることはできないのです。

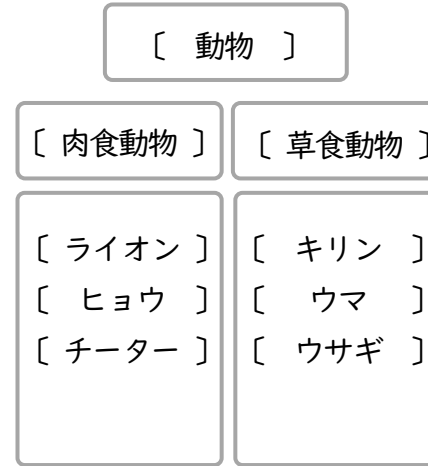
「日本にゾンビがない」理由

次の文章を読んで、「例」のように後の図や表にあてはまる言葉を「」に書き図表を完成させましょう。

〔例〕 動物は、草食動物と肉食動物に大きく分けることができます。

草食動物とは、植物を食べる動物です。たとえば、キリン、ウマ、ウサギなどです。

肉食動物とは、他の動物を食べる動物です。たとえば、ライオン、ヒョウ、チーターなどです。



① 野菜を仲間分けするには、さまざまな方法があります。私たちが食べる部分による分類、植物学的な「〇〇科」のような分類などがあります。食べる部分による野菜の分類では、野菜を三つに仲間分けします。

- 一つ目は、葉や茎を食べる葉菜類です。たとえば、キャベツ、コマツナ、ブロッコリーなどです。
- 二つ目は、果実を食べる果菜類です。エダマメ、カボチャ、キュウリなどです。
- 三つ目は、根を食べる根菜類です。ゴボウ、ジャガイモ、ダイコンなどです。



②

生態系は、分解者、生産者、消費者のように大きく三つに分けて考えます。

ここでは、森林における生態系のしくみについて説明します。

森林の土には、落ち葉や枯れた木、動物の排泄物や死体などが多くあります。このような森林の

土は、そのままにしているのは汚いままですが、微生物や土壤生物がこれらをきれいにしてくれます。

分解者としての微生物は、カビやキノコなどの菌類、乳酸菌や大腸菌などの細菌類があります。

そして、もう一方の分解者である土壤生物には、ダンゴムシやミミズがいます。これらの分解者が、

森林の土をきれいにして、植物が育つ環境を作ってくれます。

森林の中で、植物は生産者と言われています。植物は、分解者がきれいにしてくれた土と、

光合成によってデンプンを作り出します。

生産者である植物の葉や実を食べる生き物を消費者といます。バッタやチョウなどの虫がこれ

にあたります。そして、ここからの生態系の関係は複雑です。たとえば、虫をカエルが食べ、カエ

ルをヘビや小鳥が食べるという関係がある一方で、虫やカエルには見向きもしないリスやウサギな

どの草食動物も消費者です。ふつう、生態系ピラミッドでは、上にいけばいくほど、体が大きく、

個体数が少なくなります。

そして、タカやクマなど、生態系ピラミッドの最上位に位置する動物を高位消費者といます。

これらの動物は、他の動物に食べられる心配がほとんどありませんが、豊かな自然がなければエサ

が確保できなくなり、飢えてしまいますので、そういう意味では大変だと言えます。

